

別記様式

議 事 録

| | |
|-------------------|---|
| 会議の名称 | 第6回 岩倉市公共施設再配置計画検討委員会 |
| 開催日時 | 平成30年2月23日(金) 9時30分から11時30分まで |
| 開催場所 | 市役所7階 第3委員会室 |
| 出席者 (欠席委員・説明者) | 出席委員：秀島委員長、木本副委員長、大野委員、伊藤委員、渡辺委員、櫻井委員、水越委員、平松委員、井上委員、増田委員 欠席委員：なし 説明者：建設部長、教育こども未来部長、都市整備課長、学校教育課長、都市整備課営繕グループ長及び係、学校教育課学校教育グループ長及び係 コンサルタント：中央コンサルタンツ |
| 会議の議題 | (1) 公共施設再配置計画と関連計画との位置付けについて (2) 公共施設再配置計画策定スケジュールについて (3) 地域拠点としての学校の施設整備に係る意見交換 (4) 岩倉市学校施設長寿命化計画(案)について |
| 議事録の作成方法 | <input type="checkbox"/> 要点筆記 <input checked="" type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> その他 |
| 記載内容の確認方法 | <input checked="" type="checkbox"/> 会議の委員長の確認を得ている <input type="checkbox"/> 出席した委員全員の確認を得ている <input type="checkbox"/> その他() |
| 会議に提出された資料の名称 | 資料1 公共施設再配置計画と関連計画との位置付け 資料2 公共施設再配置計画策定スケジュール 資料3 地域拠点としての学校の施設整備に係る意見交換資料 資料4 岩倉市学校施設長寿命化計画(案) 別紙1 岩倉市公共施設配置図 |
| 公開・非公開の別 | <input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 |
| 傍聴者数 | 4人 |
| その他の事項 | |

審議内容(発言者、発言内容、審議経過、結論等)

| |
|--|
| 1 開会 建設部長よりあいさつがされた。 |
| 2 議事 (1) 公共施設再配置計画と関連計画との位置付けについて 資料1「公共施設再配置計画と関連計画との位置付け」を基に事務局より説明。 |

委員：長寿命化計画は、今後も存続する施設のみを対象として作成するのか。
事務局：再配置計画との整合を図りながら、平行して作成する。
委員長：長寿命化は個々の施設で方針が決まるものであり、委員会であまり議論することはないが、統廃合等の再配置の実施時期との調整が必要である。

(2) 公共施設再配置計画策定スケジュールについて

資料2「公共施設再配置計画策定スケジュール」を基に事務局より説明

委員：中性化試験の結果について、問題があったか教えてほしい。
事務局：耐用年数に影響を与えるような問題がある施設はなかった。次回以降の委員会で報告したいと考えている。

(3) 地域拠点としての学校の施設整備に係る意見交換

資料3「地域拠点としての学校の施設整備に係る意見交換資料」を基に事務局より説明

(岩倉南小学校について)

委員：南小学校は、複合化を実施しなくても十分なくらい、もともと地域コミュニティの意識が高い地区である。
委員：南小学校の児童は、元気に挨拶ができ外部の人にも慣れている。しかし、複合化になると半強制的に同居することになり、有志で実施しているパトロールの中には嫌悪感を示す人が出てくるため、事前のヒアリングが重要であると考えられる。また、施設破損時の取り決めなど、責任者や学校の先生などと慎重に議論していく必要がある。
委員長：複合化した場合の管理方法は既に議論しているか。
事務局：実際に複合化できるかは今後の検証が必要である。
委員：土曜日や放課後はコンピュータ室を開放しているが、先生に大変な負担がかかるため留意が必要である。
副委員長：現在よりも更に外部の人が増えると、駐車場不足やそこにアプローチする道路の幅員不足の問題がより顕著になると考えられる。どの学校でも駐車場に関しては不便を感じており、複合化にあたっては子供の動線と切り離すなど、安全管理を含めて検討していく必要がある。
委員長：セキュリティ対策や駐車場整備、アプローチ部分の道路改良等にかかる費用も含めて検討することが必要である。
委員：空き教室は、どれくらいあるか把握しているか。きらきら広場等は、以前は教室であったと認識している。
事務局：常に教室を有効活用しているため、空き教室という意味では、ないという回答になる。
委員：これまで教育のニーズに増築で対応してきたが、どこかで間仕切りをなくせ

ば地域への開放はできると考えられる。

委員長：大学では一室あたりの稼働率を把握しているが、学校の教室はどうか。

事務局：現実的に、教室の稼働率を把握することは難しい。

委員：きらきら広場はいつも満員の状態であり、有効に活用できていると考えられる。

委員：外部の人が教室を使うようになると、逆に子供たちが不便になるということはないか。

事務局：時間を分けて使用することが考えられる。

委員：子供の利用が優先になると思うが、そもそも教育環境を良くするのか、施設規模を縮小するのか、どちらを優先するのか。

事務局：子供の教育環境の整備が第一優先である。なお、南館の3階については、授業中は使用されていない状況である。

委員：特別な配慮が必要な子供たちの部屋は確保されているのか。

事務局：部屋がない場合は、既存の部屋をパーティションで仕切るなどして対応している。一方、広い部屋を必要とするような子供もいるため、改修時に配慮する必要がある。

委員：減築する場合、補助金との関係は問題ないか。

事務局：建築後10年を過ぎれば問題はない。

委員：コンクリート強度に問題がなければ、先々まで有効活用してほしい。一方、数値目標の達成に向けても、知恵を出して取り組んでいく必要がある。

委員長：特別活動教室は、普通教室として使用できるのか。

事務局：昔は普通教室であったため、使用できる。

委員長：複合化するのであれば、用途毎で教室を固めた方が良い。

副委員長：児童数の減少と学級数の推移は比例しておらず、その時代に合った教室を確保する必要がある。南小学校は、曾野小ができたことによって、大きく空いた教室を平成初期に改修を行い、多目的利用ができるようになった。そのため、東館は切り離しやすいと考えられる。

委員：複合化することによって返って整備費用がかかり、他施設にしわ寄せがいくことが考えられるため、コストの整合性を考慮することが重要である。

委員：理科室と音楽室が二部屋ずつあるが、使用しているのか。

事務局：一室でも問題はないと考えられる。

委員：廊下が長いので、東館を廊下で切り離せられれば、駐車場が隣接しており、老人等への一般開放ができると考えられる。

委員：保育園を学校の敷地内に併設した事例はあるか。

委員長：自分が通っていた小学校は保育園と併設していたため、昔から事例としてはある。

委員：複合化にあたっては、教室の有効活用だけでなく、敷地を含めて全体レイ

アウトとして検討した方が良いと考えられる。

(岩倉東小学校について)

委員：南館の3階はどのような用途で使用されているか。

事務局：現在は倉庫であるが、昔は普通教室として使用されていた。

委員：インターナショナルとしての特色を活かした文化活動や老人施設との複合化など、他の学校とは違った特色を出せると良いと考えられる。

委員長：言葉の指導において、ブラジル人だけではなくフィリピン人等にも対応は可能であるか。

事務局：現在は、ブラジル人を呼んで日本語の指導を行っているが、フィリピン人だけではなく、外国人の児童が増加傾向にあり、多国籍化している状況である。そのため、どの児童にも対応できるような視覚的に分かる教材を用意し、日本語で指導している状況である。

委員：英語が盛んな学校にすれば、魅力が上がり人口が増加するのではないか。ご父兄の方にも放課後を開放するなど、何か工夫をしなければ最終的には存続自体が厳しい状況になってしまう。

委員：現在、日本人を含めブラジル、タイ、フィリピン、インドネシア、トルコなど9カ国の児童がおり、半分以上が外国人の状況であるが、英語を話せる児童は少ない。土曜日にボランティア活動などによって、ポルトガル語や英語などを指導している状況であるが、楽しい雰囲気であるため、今後も学校の特色を出していきたいと考えている。外国人は、前向きに日本の文化に溶け込もうとしており、エスペランサなど国際交流のイベントを徐々に増やしていきたいが、児童が少なく、入れ替わりも早いため運用が大変である。日本人の中には、外国人を敬遠して引っ越す方もいるが、できれば学区を広げて1つにしたいと思っている。逆に学校を廃止してしまうと、外国人の行き場がなくなり、残さざるを得ないと考えられるため、再配置をきっかけに何か良い方法を考えていきたい。

委員：ブラジル人は、日本人と同じように、今後も減少していくのか。

委員：基本的には同じであると想定されるが、企業等が動けば状況は瞬間に一変すると考えられる。逆に、岩倉市はアクセス性が良い立地条件であるため、積極的にインターナショナルをアピールし、若い人が喜んでこれる街になれば良いと考えている。

委員長：学校は、その他の施設よりも慎重に検討していく必要がある。

(曾野小学校について)

副委員長：駐車場不足に苦慮している状況である。

委員：曾野小学校は、五条川に近接しており、周囲には田んぼが多く、東西道路も

整備されており、環境性、アクセス性が優れている。

副委員長：曾野小学校の児童は、第三児童館と第七児童館に半分ずつ程度お世話になっている状況であるが、セキュリティの観点から、学校の敷地内にあった方が良く考えられる。ただし、第3児童館については、駅に近く他の学校の児童も使用しているため、曾野小学校に機能を移転することは現実的ではないと考えられる。

委員：駅から遠いため車を利用せざるを得ないことから、複合化するのであれば駐車場を広げる必要があると考えられる。現在は、どこから駐車場へ入るのかも分かりにくい状況である。

委員：プールは、経年的に防水機能が低下しており、ランニングコストが高額であることから、民間のプールを活用することを前提に廃止し、その敷地を児童館などに活用することが考えられる。体育館が隣接しており、その明かりで温かい雰囲気が生まれると思う。

副委員長：プールは、水道代が高く、水質検査、侵入防止、安全指導など、管理・運用が大変である。また、10時間という年間の指導時間が決められているため、夏休みを15日間縮小するか、民間の温水プール等を活用し、年間を通じた学習時間の平準化を図ることが考えられる。ただし、平準化によりプール期間を間延びさせた場合、先生の安全に対する危機意識が薄れる可能性があるなど、子供の教育への影響は不明である。

委員：岩倉市の児童は、学校では泳ぎを教えてくれないということを理由に、その約7割がスイミングスクールに通っていると聞いている。

副委員長：昔のように、補習などの実施により、25m指導を徹底するという事はなくなった。

委員：プールをなくした場合、災害時の消火活動等に影響が出るのではないかと。

事務局：消火活動用の水は道路からとれるため問題はない。プールの廃止や統合は、全国的にも事例が増えつつあり、愛知県の中でも廃止を決めている自治体もある。ただし、プールをなくした場合、民間プール等への交通の問題があり、他市では2時限つなぎで実施しているところもある。

委員：プールは維持費が高額であり、昔は岩倉市の中でも、温水プールの維持費に1億円かかるということなどを理由に、とりやめになったこともある。

(4) 岩倉市学校施設長寿命化計画（案）について

資料4「岩倉市学校施設長寿命化計画（案）」を基に事務局より説明

委員：長寿命化計画の実施計画について、5年ではなく10年以上にするなど、ある程度の方向性を出しておかないと、議論が形にならず計画性がない計画になってしまう可能性がある。

委員：他市を含め、大規模化改修として1棟まとめて修繕を実施するケースが多い

が、管理者に問題箇所をヒアリングするなどして、大規模に実施する前に、細かい修繕を実施する予防保全の考え方を入れた方が良いのではないか。

事務局：実施計画に部位修繕は入れていないが、今後40年間の試算の中では考慮している。

委員：パブリックコメントについて、小牧市のように市民討議会を実施したり、市民活動センターを利用するなど、広く一般の市民に周知すべきであると考えられる。